



日本学士院 第80回

# 公開講演会

参加無料

事前申込制

2025.10/25 (土)

午後2時～4時30分 (開場: 午後1時30分)

会場: 日本学士院会館 (東京・上野) 定員150名 (先着順)

オンライン同時開催 定員500名 (先着順)

## 1 芭蕉が詠んだ桜 ——「花」の本意

川本 皓嗣

KOJI KAWAMOTO

日本学士院会員 / 東京大学名誉教授  
専攻: 比較文学・比較文化

司会: 高田康成 会員



お申込は  
こちら



会場・オンライン共通

## 2 微生物によるモノづくりの100年: ユニークな微生物機能の探索・開発と産業利用

清水 昌

SAKAYU SHIMIZU

日本学士院会員 / 京都大学名誉教授  
専攻: 応用微生物学

司会: 丸山利輔 会員



NIPPONGAKUSHIIN

公式Instagram

(各講演は質疑応答を含め60分)



たいわ文化発信

詳細は裏面をご覧ください

# 日本学士院 第80回 公開講演会

日本学士院では、会員を講師に毎年春・秋2回講演会を実施しており、専門分野の異なる講師により研究成果を社会にわかりやすく発信しています。たくさんの方のご参加を心よりお待ちしております。

## 講演1

### 芭蕉が詠んだ桜 ——「花」の本意

講師：川本皓嗣 会員

司会：高田康成 会員

<詩とは何か>という視点から、日本（俳句、連句、和歌、近・現代詩、翻訳詩）・英米・フランスの詩と詩学を研究し、詩の選集や解説書を出版し、一国・一民族の枠には収まらない文学・文化の国際的な交流や相関関係を考察しています。

#### 講演要旨

芭蕉の句は千のうち、桜を詠むものは八〇余句もあり、作中の第一位を占めています。ところが興味深いことに、芭蕉はこの重要な句題について、「八重桜」「糸桜」など桜の品種、「児（ちご）桜」「家桜」などの異称にはほとんど目を向けず、一門の俳諧連歌（連句）でもその発句（俳句）でも、もっぱら伝統的な二つの歌語（「桜」とその古来の別名「花」）だけで押し通します。それはなぜでしょうか。また芭蕉は「花」の本意（その題材に最もふさわしい風情）についても、『古今集』以来の和歌の伝統を固く守ろうとします。とはいえ芭蕉が言うように、「新しきは俳諧の花」（『三冊子』）です。彼は古めかしい「花」の本意に、どんな新風を吹き込んだのでしょうか。

#### 申込方法

### 1 会場 定員150名 [先着順]

本院HP <https://www.japan-acad.go.jp/japanese/news/2025/082901.html> からお申込ください。

下記のいずれかの方法で、会場希望と明記のうえ、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、メールアドレス等の連絡先を記載して、お申し込みいただくこともできます。

メール [gkkouen@mext.go.jp](mailto:gkkouen@mext.go.jp) FAX 03-3822-2105

往復ハガキ 〒110-0007 東京都台東区上野公園7-32 日本学士院公開講演会係

### 2 オンライン 定員500名 [先着順]

下記URLよりお申込ください。  
[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_YJTaxG9wQPMBm8JY1jLyQ](https://zoom.us/webinar/register/WN_YJTaxG9wQPMBm8JY1jLyQ)

#### アクセス

JR上野駅公園口から徒歩3分、  
京成上野駅・東京メトロ上野駅から徒歩8分  
※お車での来院はご遠慮ください。

#### 問合せ先

日本学士院事務室

〒110-0007 東京都台東区上野公園7-32 TEL:03-3822-2101

## 講演2

### 微生物によるモノづくりの100年： ユニークな微生物機能の探索・開発と 産業利用

講師：清水 昌 会員

司会：丸山利輔 会員

油脂を顕著に産生する微生物の発見を契機に「油脂発酵」という産業分野を確立し、これと並んで微生物酵素を用いた光学活性化化合物の工業的生産法を確立するなど、微生物を用いたバイオ産業の発展に大きく貢献しました。

#### 講演要旨

日本は、資源に乏しい国といわれていますが、微生物に関しては、世界有数の資源大国です。排他的経済水域を含めると、“国の領域”は広大で変化に富んだ自然があり、生息する微生物も多種多様、それらは四季の変化に応じて刻々と変化します。探索すれば、ユニークな能力を示す微生物に出会う可能性も高いのです。微生物との共存を可能にするこのような環境は、私たちに微生物に対する高い親和性を植付け、多くの生産物が巧みに作り出されてきました。日本における、バイオプロセスを取り入れた生産の活発な展開は、このようなところにそのルーツがあります。ここでは、「微生物によるモノづくり」の話と結びつけて、歴史と未来に繋がるその軌跡を展望します。

